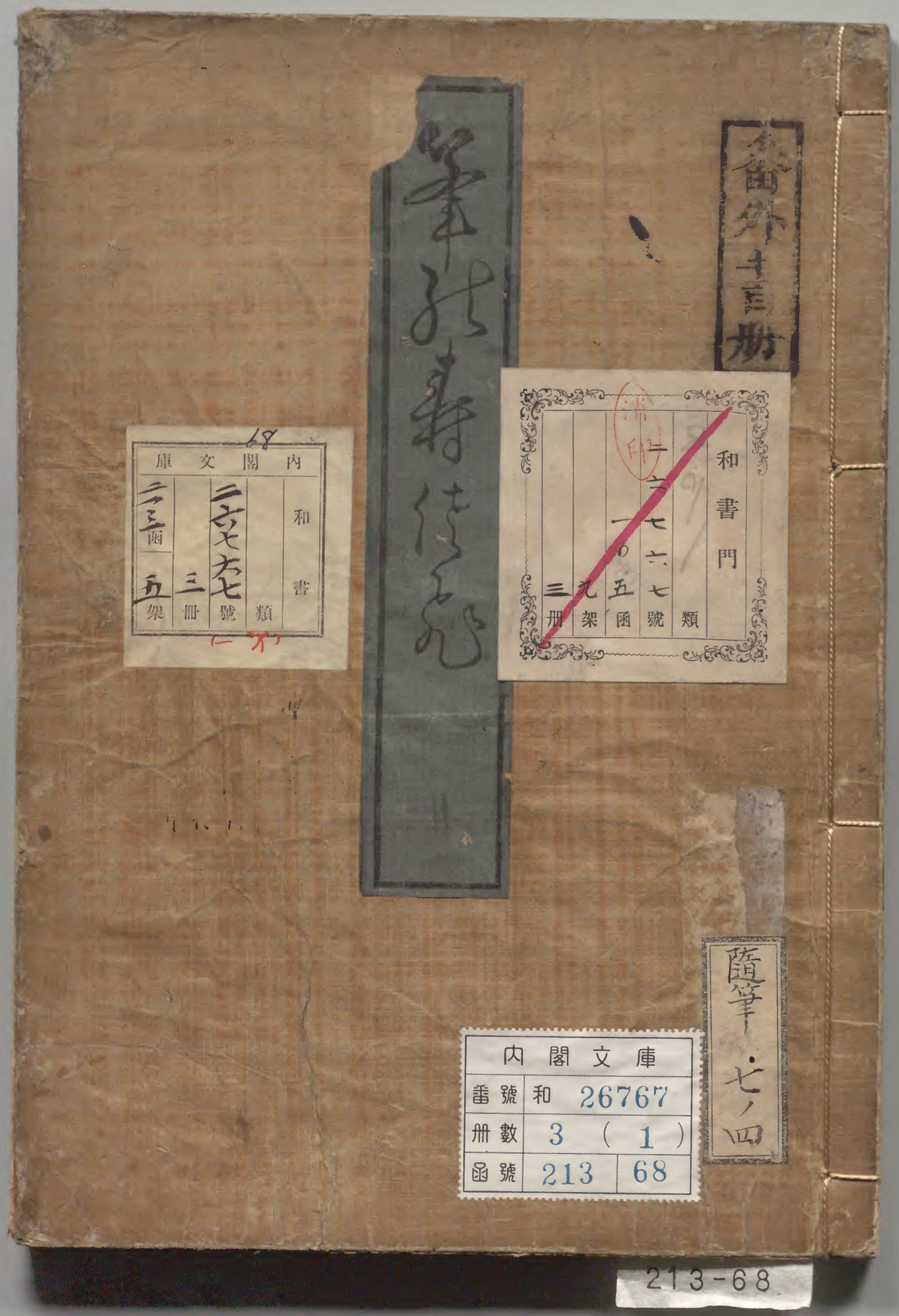
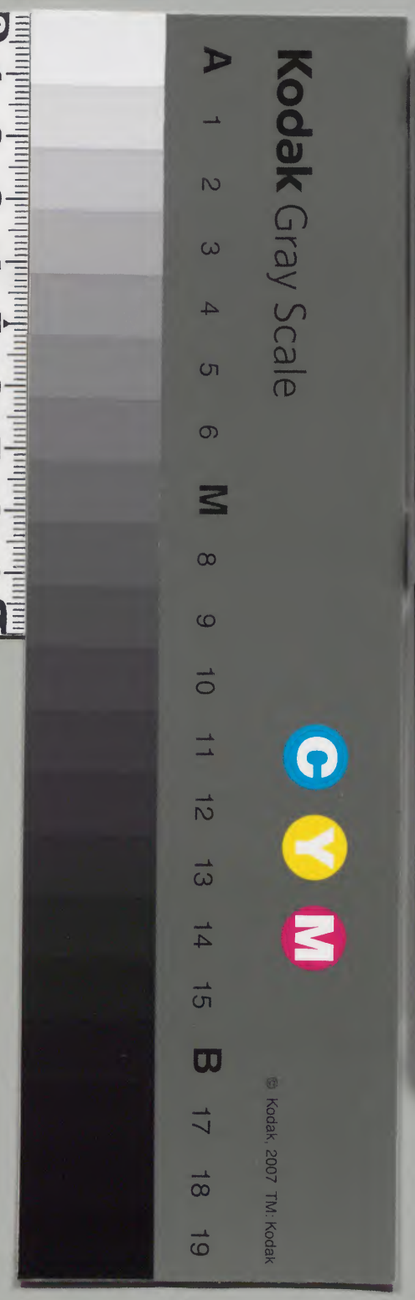




国立公文書館
National Archives of Japan

芝屋隨筆叙

古諺童謡。或可以通史。草野因寇游戲小品。或可以觀時尚世故。然而楚澤之草。不必蘭蕙蘅芷。揭車留夷而已。狼牙虎目。鬼蓋虵牀。並生同育。可以觀地道之博矣。故我先中主之所記。不必謨觴奇文。羽陵蠹迹。綸組

浅草文庫

布帛。奇僻或難解。賓遠闊遠。怪誕寧
足徵。雖然魏冒踰糟。無田茶。則朱輔
無得而錄。殺坊家人不市塩。則畜謗
無得而傳。是小說九百。亦展九流之
一焉。彥通著隨筆數卷。乞題言。翻閱
一過。類多記録歌及茶人散樂等事。
凡此數件。余不能深解。然可解与不

可解。可徵与不可徵。旁羅博聚。併畜
兼收。而後可以稱博矣。安知世有茂
先中玉。不取此裨其博耶。要之与嘆
隙溪史。猥襍小種。盡人之心術者。可
同日而語乎哉。遂書贈之
文化二年冬十有一月書於華陽
之展易齋

榜亭之照

あれにえや。世を詩麻乃ちれ中木國にも
河はま、つけまへ毎家し安き神代にかけまめ。
やく世久しゝ。
大きく支詩大清世事之眼。かゝるを定しも
まて次。
美ゝの文學あらはしにち毫てに至人むまに遍

世のくみ[illegible]ものとまるいあ。[illegible]
ちふとのをとわてうくるもの。ちんみあふこと[illegible]
きりしやうもむみあ。[illegible]
まちにものやもきをとやくちくきりをきに。
ひいりやくくあ稼(かせ)の枕のくこと。
あさとみひてくちくしあかきたやくり。

やうとの橋の[illegible]あきれ[illegible]
ひのてまふひあれ[illegible]
ままくちくきひるくきおほけくこまはん
おりくなあおしはえ楽けくを。けひ
ちるのこなちくみくに。くまちいくい。
おきくくくけ。くまやあるくきくあきり

あるべきさまにやうもあるべし。大人の学問
しをぬしらの所作なれば、なにかはいふこと
わりなきものなれば。はつきりとしたるものの。
文化元年十一月　源つねかき

筆弘考法

左京　橘泰　著

一切弘事業徳にすぐれば成る事なり。人を教育するなり。毎以なり。この故に孔門の顔閔の門より顔閔形なり。たとへば深山大澤より龍蛇虎豹と生じ。培塿ふ松柏なるべし。徳は色も形なく聲もなきなり。詩曰予懐明徳不大聲以色と。蓋聲色の人を化さんに化成の根本は徳あればなり。

國朝に諸儒の論は曾堂先生に學問源流を精しく論置もう。菱園諸子に著述ども文章議論もに行屆たる事なり。志れもいかゆる立流なるもの氣味わり。惺窩先生藤樹先生なども立流なる事はいかく只行ふく德澤に慕しと場に指段のなりとも人四貝原篤信翁なりの著述少しも立流なるわるく氣はなけれども家道訓養生訓の類なり歳時記汐路記まて種に著述より丁寧深切と盡し。懇切の志のなく尊人をもとれなり。

論語は孔門諸子の清言なり。故に經史に通じたるものなくれを解き。經史は十三經廿一史の類なり中も

三禮三傳列莊國語なども。ワヤてなく讀得たる人に事なり。先王に道をなく了解たる人たちに清言なれ。古書に骨と折る眼よわ。ぶ仏ぶ。よ得く世のもに成しなり。

孔叢子は子思作中庸なり。中庸は子思の作る事紫べ。漢儒れを禮記の中へ編收仕たるもの。專ら禮と說ゆえなり。程子より前は晉に戴顒作中庸傳二卷梁武帝製中庸講說一卷制旨義五卷宋仁宗賜王堯臣中庸一編呂臻大學一篇なども。古は四十九篇なり。

左傳ニ呪爵とあるは。ウニコウルの盃なり。ウニコウルは。ウンコルくそのの轉訛なり。蘭語ニウンこは一ツのコルこと八角くなる事のごとし。

孟子の頑夫廉とある頑の字は與刓通じ刓の字は意なり。刓はちびまるく訓じ角のなき事なり。史記黥夫傳ニ印刓弊とあり。印をちびくく押て角は減るちびれし事なり。又左傳の註ニ心不則德義之經曰頑とあるは正訓にて。孟子とは別なり。これはくくなる事なり。又泐の字も石のちびまる事なれど。心持なり。泐音勒。石解散也とあり。又歳久石泐などあり。

物と烹ごとくくまぶこと。俗言ニ同じき事ハ。周禮ニ肉清とあり。註ニ清去及反音泣肉汁也とあり。字書ニ肉在鑊中而泣肉中有液汁故从泣从肉とあり。

莊子 說劍篇 孔漫胡の漫の字。周禮ニ菊ニ作る。菊は莫干反與漫同とあり。禮記の不縵之縵も同し。菊平也とあり。

こそわり。蛤なども菊胡の類なり。

國語ニ爰居は鳥ニ名なり。一名雜縣和名ホウコロウこと。なりかがんもに似て大なり。北海ニ多くあり肥後州方ニハ。オキノロクラウこと。

枷拂也と字註あり。からさをのすなり。古名チギリキと云。西國の方言なりと云。

百川學海中に収る西使志及瑯琊代醉に鵲巣三卵一ツは必犬に化るとあり。

左傳に面縛とあるはしろをこぐ事なり。面與偭同。偭背也とあり。史記宋微子世家註に面縛者縛手于背而面向前也。劉氏云面即背也とあり。漢書師古の註も同じ。

屠赤水の鴻苞集に鳳巔の珠は事あり。丹頂の鶴の頸骨なりとあり。

人氣は凝て魂のやうに飛行して死氣のたるを

ひるを幽靈の出るなどゝ云事も皆この類なり。左傳昭公七年に精爽とある即是なり。

義子を養子と唱る事は史記衛康叔世家に莊公令夫人齊女子吅之とある註に子之謂養之為子也とあり。

拳とられ事を漢土にては拇陣と云又わざうらと云そなけん拳ならんと云歟と猜拳と云猜いうたぐるなり。架とゝゝものと書たり燈籠と猜燈と云明皇雜記に入る。

送彦九郎還日本作詩餞之とある唐伯虎の詩紙今墨本に成して往とあり是座間持筆社物を詩ハとゝゝ書もるて工なるなり。

予先年ころ大明官制ハ萬曆年間ニ人の所藏せし本
をそのまゝに書して標注をくわへ書入をわるその細楷にて
なる事をもて委しくそのこゝろをわきまへし首卷ハ萬邦の事を
載いづれも甚精しく記してわる日本にてもかゝる條ハ
奉物こゝろくそのやうなるの外ハ金産東奥州銀
出西別島漆以製器甚工緻とあり
朱子語類ハ通鑑を引て曰有人適外國夜熟一羊脾
而天明此是地之角尖處とあり羊脾ハ煮て熟し
易しとあり
淫精子宮小やぐら初と醫書にハ先天ゝ慈惠大師ニ法

華經ニ玄賛と云作りしよ。一七日内名羯剌藍とあり。
先天の梵語も珍し尚此條ハ疱瘡ゝ痘瘡ゝ事わり。
豆瘡疱瘡ニ名ハ唐の時ゝ既ハ有しなり　皇朝ゝハ
藤武智麻呂の時ゝ續日本紀ハ見ル
道元禪師ニ詩ハ一箇烏梅両箇棗更加一箇米囊子
生姜一片寸甘艸赤白二痢一時治とゝ痢病と
治ゝ妙藥なり米囊子ハ罌粟のなりたるゝ禪師の
意ハ罌粟殼の心なるゝ明朝倅と云人詩人の見ハ拙
俗ハ人ゝ色ゝ愚切なる實意ハ中ゝ及ハ見ハ是ハ
計ゝ徂徠先生ニ詠ハ歌ゝ笑及ハ作りし事ハ

口の宿所をも御尋なされし事を教ゆ言葉なく
ゝ大ゝ分わり又傳教大師教示の詠ゝく
生死海を悲悲の舟にのりあひ乗合の人
たゞ法の舟にのるこそ有れど。句調ゝ。鞭裁ゝ。徒前の
有ゝ字に有れど。沈思し深く味ひ入れば。大師の御ば言
外の意味深し
程氏外書曰病卧於床委之庸醫比之不慈不孝事
親者亦不可不知醫ゝ世間猥ゝる雑書を親の
敵のごゝく。藥箱ゝ。ゝ付るゝものゝ。世ゝみ不學無
術の庸醫はわるゆゝ

醫門は十三科或十四科と立ゝ事道藏経以来古今醫
統翼醫通考羣書拾唾輟耕錄聖劑總錄等各ゝ
ゝの大同少異わり後世の事わて周禮醫師職わる
所ゝ趣異なり。本邦ゝは大同類聚方は十三科具
烏ゝわり。科門ハ格別近来ハ後藤流香川流後世家古
方家ゝ種ゝ門戸と建るゝ。兎角何流ゝも仏家
ゝも只ゝ藥ゝく利ゝ。速は活ゝ流ゝ。ゝ加ゝ。ゝ朱子
學の徂徠學のゝ。ゝ儒學ゝば孔子流の學者ゝ
ゝ彼滑川談はゝ。ゝく勢の高ひが時は取て代勝か
ゝ

松風などの小菓子は。五山の僧侶ハ犬皮と唱へ。牛皮なるの名なりなどし。犬の字を忌て。今ハ姸皮と作るわる人いとく見肥の字をかへなばらけんと。

硝子は細工のかひなどの故と國憲徽猷は軟瑪瑙なりとあり。

截花と花筒を挿し花勢終日不減疾まぬ作法なる事。是又茶人のなる故にこそ。未明太陽未昇前に截られ。終日勢ひ強きなり。夏月なれは如是にして枯かゝるなり。秋日なれは。胡枝花などの中にいれられ易くなれを易とするなり。是とても工夫して久しくなるに作法

ものしのは。二十六庵は主人なり。

茶事に長じたる人。古より名家数多わすれ難き事なり。

より往来して目のあたり見聞したる宗匠家なる。三十人ばかりもあるべし。その中に紹鳴宗川久田宗関。同宗旦宗旦鈴木知足庵。速見宗達。五家なる事実式徳等に精しく茶道のもとゝ茶の陽もとゝして。茶は清雅の風流なるべし。手ならはれる人の因けりとなり。

百人一首改觀抄とよみ侍るに。契沖はなべて紫は草なのまんなるのせし。樋口宗武とゝ人のとりおくるやうにて未よ

上ヤ一ちの字ん〻と又ゐ〻なり。ところ〳〵仮名ばかり書きひら
がゝの仮名ばかりの集は。萬葉集のみなり。かゝれ書る注解せず
まして。俗門ばかりなり。伊物ばかりこゝろ出て。古義と称明せれし
ふるしく。ふるこゝろ学ひの学ばあるは。大よ功わりてげふ律集
ともて人ことゝゝ。ことゝゝ仮名ばかりなりけれ。只ことむらくは。非分ばかり
ちはよくて。かの良遍法師ごとき。ものいひかゝ
はんとちかれて。たゝでみをなくゝまれかまれ。そのけも
ものもけぬまでふくゝ。ばかれ引ゝなぐ云いそ〻なぐしを
いひけるなど。古くゝいる曲まると矯て。ものふるとふく云
たぐひなんゝくゝ。ばかり書と引おていひゝるゝ。萬葉集

巻四大伴旅人卿の酒ばかり歌の註代匠記よりとる。
ことゝゝ。
ちなみに。廣居未落見他山とある歌。
伊弱山ゝ人なりは。ばかりもとゝ。
ゝゝ。ものこゝは。徒因法師づ
ゝの。ばかりのなよ形るまた。
ゝとある。ばかりとしてあるゝ。
ばかりばかりなりゝは。ばかりばかりなるゝ。
藤叔藏とある。ものゝ。佛光寺ばかり中坊久遠院とある。
ばかり子なり。毋ハ岡野ゝ永る。妻ゝ。ものゝ姫ゝ

ありし父の師死して後。叔苑壮年なる時。母なる羽ぐゝみより釈族
長上なるをもおそれずゆるして。自ら放蕩三昧にて剃髪をもたて
寺を出て何かにもなく遍歴して。今世の彼宗旨なるもいふ
その血脈をうるにて。自釈の子に後住をさだめてて門流中及び
釈族たちなどよりも集りつゝ。かく求めいはると理解を説け
ども。一寸耳にも入れず。只おのが後の孫にゆづりて父の遺跡
のすなはちいとど放埒にも。逃しもやうにとゞめんせいなし。して寺は喪
子として後住と定めたり。則おのれがいさけゆりはれ人ゆきて
後住となれり。おのれ壮年の時なる身なりしが。その因もて本なる
坊ハ役く継れしてゝ。寒毎て聖にも。なく。叔藏の始末

はぶらかし揚後を受けり。其後廿年ばかりもありて。田信平が弟として
。叔藏に扣舎ぬ今ハ儒を業として。京に住居あるよしを
彼見物語るにも。奇怪僻説ども高慢にいひ後めり書は
。まづうけていひ侍りし。其後ハ絶て面会もせざりしが。ちかごろ
谷堅吉衛門といふが書を袖にして来り。見せけるは叔苑が
著述せるよしとかいふにとどめて。はなはだくいひけれども。いなだくもいふ
ねらがしらごとのみ書けり。かの齊東野人之語也といふ
。たぐひなるこそ。そのと壮年なる時より孝悌の心なかりしとおもへるが
。果して。かゝる事を書て人を偽どもれ。好奇の僻おもはれたると
おのおの叔苑が儒を業とするところ。直在其中矣といふ事を

いふを講じさせ給ひしとかや。

山岸本壽賢名維明といひし人は山岸和田侯の藩醫なりしが。致仕の後京へ来りて住けり。詩に工にして和歌をもよく詠ず。霊元上皇離宮にて筆とりて詩を賦り。御感ありて蒙り後は法眼位をも賜り寵光厚かりしなり。百二十歳の齢をたもてりめでたき人にてありしぞ。人皆あまねくしらざればこゝに志るしぬ。

早春一夜水野氏が夜宴に招かれ席に鹿肉を饗せらる。至て美なり。一座おのおの新鮮なるを感賞してかの小倉の宵捕なるにやといひしかば主人曰則手のもの故郷加州

金澤より饋り来る。當年ハ舊臘まで雪なく殺せし故十六日ぶりなれど。則ち日到着せしなり。想ふに鴨ハ寒中にまさる時は雄鳥ハ肉痩なり。鴨鳥ハ肉おしも雌ぶななり。因て當年は鴨鳥を賞し。雉ハ收藏の法よくて觜の肉乃ハ両翼并に毛頸の肉までも大なる山葵葉とつゝみてしたる故に味減ぜずといへりよりてとふに菜葉なりとも收藏の法によりて久しく味ひを不損よしなり。すべて魚鳥の肉おのづ別して收藏の法ありし。漢土にて豚を屠る。夜に入て星をみて後に屠るものハ必肉に星點あるよし。周禮冢宰職に腥臊羶香之不可食者といふ。鄭玄が註に腥星也と即このことなり。

とゝ〻机〻云ふ。何の時小姫ら。監舘たゝつぐらしが。
明月記。建永二年三月五日賀茂歌合。今日給題。
七日依有雨氣。御幸被窓云云。次入御舞殿御前
敷圓座。大納言依召候御前。次召歌人。有家取歌
合。參上。敷経持參榊枝置御前。為文臺。枝下向御
社方。以木葉面可為上之由有仰。置歌合於其上
云云。幸上御社。次第如前。以橘殿為御所。予依召
取歌合。參上。敷経持參杠枝為文臺。如前讀上了
各退下云云。れたゝ机の初なん。
土佐日記。かゝりてくらわんとすれども。口ばゝふを

ばゝのなりらも古屋の浦くらら砌。賀ようなり。灘
邊の漁者ハ尻槌細ゝらの見なり。
小野社。ゝ社冊ハ室町。松本町より住せし人なり。如ハ畜
河内守ゝる人の妻成。信州松代へゆく。後ゆく。
ゝ云ゝ孝養仕ゝ。足のくゝ。ばゝと松代へ
引ゝる。ゝ松代へ下る。ゝ。姥捨山の近きわらど通ら
ゝれハ。姥捨山と通ら。名所のゝ。後ゝ。通ら
ゝ。ゝ。ゝ。通ら。
けらゝの時ゝのゝ。ゝ。ゝ。

[illegible]の山[illegible]は入[illegible]事[illegible]くもされ[illegible]
[illegible]は史記[illegible]縣勝毋而曾子不入名邑朝苛
墨子迴車[illegible]
婦人[illegible]なり此事[illegible]始末詳[illegible]松代の長
國寺[illegible]實岩和尚[illegible]河西寺[illegible]田伊
[illegible]寺の[illegible]七千石[illegible]
松代[illegible]長國寺[illegible]曹洞宗[illegible]流の[illegible]孫[illegible]時[illegible]千
大[illegible]岩和尚[illegible]州[illegible]の人[illegible]近[illegible]
和尚[illegible]因[illegible]
青蓮院[illegible]純[illegible]

[illegible]井[illegible]佛地院長圓僧正[illegible]
[illegible]園尾正恵[illegible]人[illegible]自雲軒[illegible]
[illegible]此正恵[illegible]四天[illegible]
正信[illegible]
[illegible]田口源助正賢[illegible]人[illegible]百[illegible]
正順[illegible]消息[illegible]書法[illegible]
[illegible]
此[illegible]人[illegible]
良[illegible]
平林淳信[illegible]人[illegible]東都[illegible]

その弟子の語りて曰、我病根は筆管よわく、又曰、平生字をとるに字ごとに一千字字を授、衡机くるれの住るくに字あるふなりく。又曰、我五十にして後、初て細字を書るをと侍り。

字を出板れ切にそなはわづらしくれ、いつれも出とそのよ人は解ぶれ格なり。

茶人の名家なり久田宗全は雑色動者にて一條新町より居住れ。江岑宗佐の甥なり。宗全先祖は久田刑部にて。江州佐木牢人なり。刑部妻は千利休の妹なり。刑部の男と久田新八郎入道にて宗栄と号れ。宗栄のをと久田理斎にて入道して宗理と号れ。此人宗旦の弟子にて江岑宗佐の妹なれと

妻なれ。理斎妻弟と源斎なり。藤村宗徳の甥なり。

宗理の嫡男宗全なり。宗全は弟も亦江岑宗佐の甥なり。

嫡。通称宗佐と云なり。宗全の嫡男も亦手家の養子なり。

原叟宗佐是なり。

藤村宗徳も佐木牢人にて。江州藤村の人なり。藤村は藤堂

邑の傳村なり。故に高虎朝臣後に宗徳と御伽に被召て。

五十人扶持とて一場なり。宗徳実子なしして久田理斎の弟

源斎と云ふ。源斎も亦宗旦の弟子にて後に反古庵

庸軒と号せし人なり。

樂燒屋一入の妻は南山城玉水の産なり。此妻の産なるをと

弥兵衛と云家入の子なり。一入死去後妻と云家入の用聞なり。
依て妻は幼少の児を懐して在家に帰り。左家にて育たり
成長して能く樂器を仕なりしを。五水隠居して茶盌を鐵し
なり。後名を一元と改む。一元の子二代目五水隠居なり。隠居の
子を任土齋と云。三代目と又五水隠居と云。四代目又五水隠居
と云。後は樂義と改名。今は五代目のなり。
竈とくぐりは曲突なり。曲突直突の字は漢書に有。又九
輪の塔なりとも曲輪なり。九は陽の数なれば墓碑塔碣
の類は九数と用ゆべき理なり。
かくやなりと云は可愛なり。神代の巻に妍哉可愛少女と

あれぬくらんいてれば。男女の間なり。
大村鶴汀老人の説に。枕詞製作は定なる定なり。寸
法なり。寿命三寸樂四寸と云。此寸法なる枕
と製し試て至極せる事なり。
基俊卿俊成卿に古今集と伝授の時。及び紀貫之の女に授
附属の説かなりて。三名序の説なり。後成卿古
今相傳の後。基俊卿の子に授なり。
三部くいほしてふ[illegible]毎一字の説[illegible]
基俊卿なり
書なりなる人今のこの業とのこと[illegible]

宗祇法師肖柏と同道して定家卿の墳墓にまゐり侍の句よ
　わけぶかきこけのうへのそのもとの月
　　しぐれうちはらはれぬ定家卿のおよ
　　ひけはなとなのはもるあきしらんの月ぞとこのもとの
　　ふるあめよもすがらとてせしたり宗祇自筆にて此句と書
一軸伊豫州一大寺の御所蔵のうちなり。
然るに此節直實は相武天目の商平直方の後直貞のまなり。
　昔下毛野國に大なる蛇出て人と害ス。直方此年の時射術に
　達したるまくらの蛇と射殺なり。子孫感賞して吾輩孫氏
　なりと云て。われの黨の長なりしを賞ス。依て此賞を士の

黨の旗頭に称せり。此事鞆州迎接院の縁起に詳に
記せり。
田原又太郎足利忠綱は希代の勇士なり。身の三異あり。
　一には力百人に敵ス。二には聲十里に響き。三には丈の長サ一
　寸餘ありしなり。皆腎精の強氣なり。東鑑又は和漢
　名數に見ゆ。
時宗の元祖は一遍上人なり。上人は河野四郎通廣の男なり。
　伏見院帝正應二年に五畿七道遊化ス。
　齢八十六歳なり。詳に七條遊行の内河野氏弾偏にあり。
法然上人の弟子

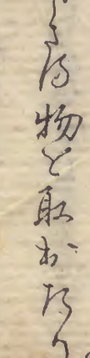
ひとつに佛といふかハりの公ハ[illegible]ふハのもとにうりぬ色
ゐ人と故上人と号る事ハ善導観経疏散善義ゑ一
心専念彌陀号中略順彼佛願故なり。此故の一字ゑ
う他力と見ハ故ゑ生涯の功徳此故の一字ゑふくるうんぐる
物ゆゑ。故に人ゑ呼うしなり。

北山城細川村ゑ金華山ゑ院わり。本朝語園ゑ載ル因果
居士此所ゑ義り居たるうしなり。又下京松原西寺町の末
慶寺ゑ寺居士ゑ遺骸なり。

内経ゑ。女子二七而天癸至ゑわり。文獻通考ゑ。女子自
生日起至五千四十八日而天癸至ゑわり。同じ年月なれども

文獻通考のうゑ[illegible]。

曲玉ハ紅色なるものハ佛ゑ丹州白島の御陵ゑ堀おこ
たるゑ[illegible]。繒紳家ゑ所蔵仕ゑ[illegible]。
白色のものハ江州山田山祭ゑ指ゑ緑色のものハ[illegible]。
雑人も所持ゑ。玉造明神の奥ゑ堀出せしゑのハ緑色
なり。江州新堂村ゑ寶発村ゑ両村の百姓相議ゑ[illegible]の
なる小田畠ゑ堀る深サ一丈許ゑ石ゑ堀得ゑ。



かくのごゑ。石ゑ[illegible]物ゑ取おこなう。
ゑ村の社ゑ納めたるゑ。是ハ神武紀の歌ゑ[illegible]の
頭槌の故なり。又松前然谷村ゑハ雷の頂ゑ[illegible]ハ如ゑ

折ふしにうつり共を青琅玕なぞらへ詩をおもへん。

相國寺の大典和尚ハ近来ハ學僧にて儒學を長じて詩文の助けを成る書をも多く編たりその編彼是著述多く傳ふと雖も老ては一助たる事なし。風流もわりて系の汚なきも得れておのれも系も拓もうきなる天明戊申の治火ハ大変ハ始末を記して。贊。攸記と一冊子印板して出やうその文章記事體簡實にして首尾能整ひ多くの傳者も及ハぬ所らん。さるよりの論を國家昇平之久上下安佚驕惰之風滋侈。中畧器玩極奇功云云ひぐ數十句わりその意旨の極ハ民昇平を浴して奢侈を流るゆゑ災わりにてすなり。

かやうの學僧をわりしらぶ。深屠氏を違なくうを言と述けるこの和とせて戊申の災ハ何のゆへなく東風の強き曉る東の方より火出て西へ焼めり折ふしの暴風にて吹て東西南北へ大変を乃ひ云了間のけうぶなり。嗚呼僧にうの和

甲陽軍鑑を載る當時の四大將ハ武田信玄上杉謙信北條氏康織田信長なり毛利元就ハ時の先後遅速なり載らず。謙信ハ四十九歳にて天正十六年を卒ス辭世の句を四十九年夢中醉一期榮花一盃酒と飛れり。信玄ハ天正元年五十歳にて卒ス辭世の句を大底還他肌骨

好不塗紅粉自風流く作れりかけて自絲ゟ
人ハ城人ハ石垣人ハ堀なりけハ味ゟ紙ハ敷ゟり
ゟ絲ゟて生涯城郭と構えべ軍と仕れり。桓ゟ十一年
左傳ゟ闘廉曰師之克在和不在衆ゟ語ゟ。
四ゟ
鈎鐘ハ紐と龍頭ゟ。其外の器物形物ゟ。龍ゟ
ゟの龍ゟ
負重故以為碑趺一曰螭吻形似獸性好遠望故
堂塔屋殿上置之一曰蒲牢形似龍而小性好吼
為鐘上紐一曰猊狻形似虎性有威力故獄屋門

上置之一曰饕餮性好飲食為鼎蓋一曰虬蝮性
好水造橋柱一曰睚眦性好殺刀環作之一曰金
猊形似獅性好煙火香爐作之一曰椒圖形似螺
蚌性好閉故門鋪首作之ゟり
一條の左関兼良ゟ。古今ゟ。文明一統紀ゟ
事根元歌林良材花鳥餘情四書童子訓新續古
今序又紀行詩等数ゟ。若ゟ。庶仁の乱と。
江州委知川ゟ。塾居仕ゟ。今多賀ゟ。名が畑ゟ。
原即遣ゟ。この乞と。兼良ゟ。写ゟ事。林道春の
梅村戴筆ゟのゟり。

古は書籍紙墨の故絶くなりぬるに自由なる澤山なりし。白氏文集などやうの御府の一部わたしのこなりしなどいふものあり。さて仏のこゝろは却て屋くのものもなく人も多くわたしなり。御本などはもてらさるまゝ楠公のはも自ら書写せしなるべし。楠公は北条の時所々を寫之何晏の論語集解二卷あり。紙も寫経の裏を書しなり。此書今は伊賀州名張家中某士の家に隆起せり。世に多く持わたる古筆手鑑に鄙しわたの俳富先生の短冊なる。十に八九は論語集解の一紙なり

唐は世三百年の間も然中李杜王維岑参などは賢人の多りしに対て盛唐といふて天華の世なりし。偖上なりこの中へ一つの邦より壮年にて秘書監に成て居られの嘆きは當時はなべて書籍の海山なりし中にはなて出来ぬ紙もなるもなりぬ。

澤庵和尚の詩奇なる自筆のものも世に多くて珍重する人も多く。詩欲しがる人合に贈答なるものも色々それなりぬ。

卯感なる事わるく書しめ書なる詩なるなたのなり

澤庵和尚

歳旦

従来八九七十二扶起老人不老人。柱杖

頭邊着花日山家大地自家春。

和韵　琢玄座元

娑竭龍王躍車海。衝天意氣忽驚人。従来
君啻興雲雨。漏泄腥風萬國春。

配所にて二首　宗彭

はるかなる海の日とみちおくのわたりの松乃ねをうつ
なる川にはやせの月もかげうつしきせすむらひとなり

西新屋敷須磨町と島原にいにしへ哀傷の跡。
地市中にハ坤の方より東へ廓中と坤皆新の形を造り。
六町まちにて不夜城にして淮南子にいへる遊里の
事にて侯ハ

出家にて在家と檀那檀越にて事。階確類書より楞嚴
経の注と引て出たり。然れ布施と行ひ生死海と渡る
ハ法なり。
信濃州武蔵野にて人屋ハ毎年夏ハ入ル。其所ハ草枯て
地わるくれ。形月暈のごとし。遠ハ遠ハ明るく。或ハ五六十歩或ハ
二三十歩圓圍わるく。其圍の中の草ハ枯。春月ハ草
復生ず。土人月の輪と名づく。備後国周西村遺跡山腹
夏ハ入ル。又上ハ一町或二町草枯てかくのごとし。土人
蛇食と名づく。相伝ふるの比蛇毒わるくなるなり。
法然上人の選擇集の弥陀ハ娑婆世界ハ於て登ふ所の唱

導門に入らんと。無疑無慮成得往生と一代の教法を一撮にまとめて。愚夫愚婦までも速に解る様に。平易なる中にも萬民金石の化を服せしむる。千古に発明なる。

法相唯識の見に識念識聲に別に。喩伽論なども。

こゝに密教に身口意の三ツを一ツに見る証なり。

妙恵上人帰朝の日茶種を將来して。栂尾に植。後に又宇治に移し。紫野に。

こゝに古傳教大師異邦の種を將来して。江州坂本に栽る。

たもう事。坂本日吉社の舊記に詳なり。

季の御讀経の二日なり。行茶とて。年中行事歌合の方に詳なり。天平の時より。迦葉仏の事根元も。

伊勢の神庫の舊記も。行茶は事わるいなり。大内裏の

内々方一町の茶園と。垂仁の時。拾芥抄に。延暦年中の事なり。建仁開山千光国師の喫茶養生記にも有。

丹波の雅忠八名聲。百濟国より清セ。本朝野群載に

名。永平天文の年間。武州河越の茶。尊氏公の人。

明応の十二年迄留。帰国の後長嘯にも。

一説、道元又名聲。

[illegible]八絃器の也名[illegible]て[illegible]の器訓[illegible]琵琶[illegible]
琴の[illegible]和琴[illegible]琵琶[illegible]和琴
[illegible]琴[illegible]
[illegible]
[illegible]
又兼盛家集に琵琶法師と題[illegible]
[illegible]
[illegible]琵琶[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
社年所拾[illegible]活板[illegible]易経古註二巻承兄和尚の跋[illegible]曰。
古今學儒書者排斥佛経學佛経者排斥儒書是
世之常而共不辨真理也釋尊坐中國設教則如
周孔周孔生西天設教則如釋尊儒釋元来不渉
二途如鳥両翼似車両輪也如閑室大禪師者壯
歳入東関讀四書六経而品論之講説之既称學
校者有年于茲暮齢到洛陽傳中峯法要位空門
極品僉曰儒釋兼并也嗔蒙
大將軍源家康公鈞命印行周易其志要弘聖道

於萬年能校正舛差而加陸德明音義於王輔嗣
註集而大成者乎古德曰鷲嶺拈華伏羲初畫少
林面壁文王重爻然則於禪門亦不可不究盡易
道予於禪師其情如骨肉因需跋其後不獲固辭
謾書爲已

慶長十年星集乙巳孟夏初五日

鹿苑西笑叟承兌

ゑ承兌和尚は豊臣太閤の時異國より歸朝ありて
一座ものがたりに依て承兌ゆるされ
太閤御前にて講じたまへり

黄山谷詩集ゑ曰太醫孫君肪字景初自號四休居
士山谷問其說四休笑曰麤茶淡飯飽即休補破
遮寒暖即休三平二滿過即休不貪不妬老即休
三平二滿は半字面の事なり
八十一難經と秦越人の作る所元の滑伯仁の序を初めとす
然ども史記扁鵲傳ゑの外史籍ゑ越人作ゑ事ゑ
多くは作者の評論諸家區区ゑ小文荒英華
第七百三十卷ゑ唐の王勃の難經序をのせ
黄帝八十一難經序　唐王勃
黄帝八十一難經是醫經之祕錄也昔者岐伯以

授黄帝。黄帝歴九師以授伊尹。伊尹以授湯。湯歴六師以授太公。太公授文王。文王歴九師以授醫和。醫和歴六師以授秦越人。秦越人始定立章句。歴九師以授華陀。華陀歴六師以授黄公。黄公以授曹夫子。夫子諱元字真道自云京兆人也。中略

玉海六十三 藝文部も出たれど全文は此王子安は初唐のくれなゐの古きを改め後に移く試たるなるべし。

浄仲弘法大師の元祖の人々。根庚の家臣三千石弁源八郎元政なる人々。弘法大師十年修行。寛文八年二月

十六歳にして剃髪。教を受て如吾宗致一言妙法諸佛秘要語之言喪思之慮亡。唯可信得不可識得不思議之不思議者也。非霊山別付之人其孰得之。 艸山妙子

右自書の一紙わが家なる長根千五百石石井市郎兵衛近ごろのものなり。

趙松雪書跋云藏書良非易事。蓋觀書者澄神端慮。浄几焚香。勿倦惱。勿折角。勿以爪侵字。勿以唾揭幅。勿以作枕。勿以夾紙隨損隨修。隨開隨掩。則無傷殘云云 然書家のくれなゐ書とそるしてかくのごとすべてなべの

筆蹟と兼採まゝり扱よハ。無筆同前の人ゟ所作なり。
唐の時代雅ましが義之の蘭亭帖一本所蔵せしを勅命を
受とゝ。連城の璧ゟ所ゝ世ゟ近ゟ墨池編ゟ
詳ゟの也ゝり。故ゝゝゝゝ也。
萬葉集四ゟ所の濱木綿ゝゝゝは一名濱芭蕉。一名
濱とも云ゝゝ。廣東新語ゟのゝゝ所の文殊蘭なり。芭蕉
ゟ似て小なり。莖幾重ゟ形ゟ重ゟ花ハ多の赤ゟ形ゟ
開。極ゝ潔白なり。形唇の如。十二花瓣ゝゝ咲ゝる。
紀州熊野海邊ゟ多ゝ生ず。花蕊の叶ゝ白木綿ゝゝゝ
ゟ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ名付。

温石ゟ軟輭の二種あり丹後普甲嶺今改名千歳坂のゝゝハ蒼
艾色黒ゝ式常ゝ硯材ゝゝゝゝ但質軟なり。丹波
大枝山の鬼ゝ石窟色のゝハ普甲嶺のゝゝゝ異同。
伊勢朝熊山のゝゝ軟なるゝ色。大石ゝ。路傍ゟ所ゝゝ
落在ゝ紀伊州の者ハ青白色即山東通志ゟ所ゝ云者見ゝり
阿波奴島の者ハ海濱ゝ大石ゝ海ゝ入ゝ知ハ見ゝして
梨地のゝゝゝ金色ゝゝゝ陸奥二本松の者ハ青黒色上品
なり。幾度燒ても不破不剝。布ゟ色めゝ潤出て甚佳なり。安房
州勝山の一所。馮山温石のゝ質甚軟なり。菓刀ゝ切ゝ。
但馬中瀬の金山ゝ温石ゝゝゝゝ形色未知。紙ゝ糸丹ゝゝゝ

出ることなり。薬州府志に板縣に五色温石あり事といへり。ある人曰
冬月凝寒して吻弦折れを易くに温石の未だ弦とたぶべ
即ち知るべし其性温なること知るべし。證類本草に温石一名孔
石ともいへり。燒て温なる石と通して温石ともいふ。味辛
苦なり。商家は絹帛と捏餅のごとし。日に乾して燒用ゆ。
亦温石ともいふ。まことなるものは大に劣れり
萬の物と目利とる事は漢土にも識鑒鑒定とて人才の
一つにしてなり。元来ある人は果敢決断の早き器量にて
何ごとにも世なるべきなり。世説
新語に識量の部とあるも見なり。思鈍なる人は決して

かくこと事なり。上古に孔子辯菁實ありしのごとし。号の弦なと
世なの考ふるもいとも人間を〳〵國朝も利休居士小堀遠州
片桐石州など名器事に長じたるゆゑなり。
感服してそなしい。元来識量鑒定に長じたるゆゑなり。
古筆了音は屋世の中も稀なる目利なりしなり。京住
居の間茅屋の内に惟子屋何某といふる者は内茅屋内のよし
殆切に伺候せり。ある男も目利者にて賤作ものなれども
上手なりしが了音の留守に仕く居けるに退屈のまぎれ
慰に小屋の内に一枚書きたりしをかくなるべきかと
いひ心もとなきものなり。了音帰宅の時伺ひ見て

又せうの音又ていく。見ハこの方ハ書しこの本ハ見ル
遠州の西筆ハ人をこと物ハ[illegible]ゆゑよ極札とそ[illegible]
この[illegible]極札とそ[illegible]れハ。[illegible]ハ惟[illegible]同ていく。西くハが[illegible]
なぐ[illegible]ハ極札とそ[illegible]ハ[illegible]雅[illegible]ハ[illegible]音
いく。今一枚ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
極と書とハく何ハも書[illegible]ハ。再[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハて中[illegible]ハ音の目利の[illegible]ハ[illegible]ハ。
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ目利者て平日[illegible]ハ我ハ目利ハ
[illegible]ハ自ゆ[illegible]て居ハ人ハ目利ハ[illegible]ハ。生涯目利[illegible]
始終[illegible]ハ居ハ[illegible]ハ目利ハ[illegible]ハ。

[illegible]ハ[illegible]ハて性のよ[illegible]ハ[illegible]
又[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ
石自刎なるのハ[illegible]ハ邪人なり

日野資枝卿の御詠ハ田家ハ[illegible]ハ

[illegible]ハ帛衣[illegible]ハ[illegible]ハ小田[illegible]ハ
[illegible]ハ孟子ハ五畝之宅樹之以桑の一章ハ[illegible]
[illegible]ハ田家ハ[illegible]ハて王政の仁澤ハ[illegible]
[illegible]ハ京師ハ一老人ハ[illegible]ハ家組ハ[illegible]
[illegible]ハ諸貴門縉紳家ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

人なり。年七十よ及びけり。時日野家へ御染筆ありしと聞けり。
所ふし此四家の御家の御書給わりしとはいとかしこし。老人
これをいとこそ表装して年賀の系の掛とし給ふ。
おのゞ家系系図巻物ありしなり。初五の句も七十と賀して
添しのみ知る。事實人名ものしと孤独自負して清りあり。
今は亡く田家の御添して系図の賀は御添ゆえ亡くなり
なりかゝる御遠ひの久盲なる人も事ゆえ長じて極まるなり
なり。この家古仲間の筆人は一句よ久盲なるものゝ謝傍
せしなり。口惜さ事よわ。宗旦紹智庸軒遠州
なりかゝる久盲なる人なりしなり。

空也上人鞍馬山の虎風山より所なり。平の貞盛の遊猟なり。
鹿を射るに帰るふ多く教化せられ貞盛感服して
平よりなりの貞盛は平貞文の男なり。上人は康保二年霜月
十日奥州會津黒川村八葉寺なり。七十歳なり遷化せり上人
京都なり草創の地は三條の西郊字最初河原なり処なり
空也堂開闢なり。天慶年中なり遊行なり。遠江国
間まで行しなり。今の紺屋師の地は寛文二年なり移れり。
今小御堂なり居のかゝ碑碣なり其文は墨のなり。又
御筒の記録なり詳なり。
京師北野社宮仕長谷家なり。図なり。塙氏一顆所発なり

中より水の流晴よりほひ其水上下にみつる因樹屋書
影うつる。水精枕は洛周の所なり。
奥州會津の近邑柳津にて亦の国花なり。京師にて家一
貯うるものしるべ。長サ一寸許なる極密核の中に白穂のみな
ほとなく七福神の像を彫刻して入れり毎像一体の大さ
二分二分四分ばかり各儀無くして解なり。細密工微清潔
なること絢よのべがたし。中くに人作にあらぬ物なり。仙巻
府にもこれと彫刻なる人あるべし。
寺町の遺迎院。吾台宗にて慈鎮和尚の開基なり。寺地は
伏見街道一の橋より南秀吉遺址院と唱る処即是なり。今は

安部晴明舊跡にて。榜爾の建なる所なり。本尊の佛像は
釋迦弥陀二体なり。故に遺迎院と号く。遺い秋迎ぬ来の
事なり。迎い阿弥陀如来なり。
蓋事と嗜むを侘とし。粗寺とは事。第一の義なり。風雅は
物好とし閑寂のわびしらとなるべしなりとのわびと
なるべしむ中に。新古志わりく。古器は雅趣ある所と鑒
定して弦びなるべしむ是即粗寺なり雅韻風致と賞する処
彼禅味にはじゝゆゑに。禅林の高徳にも。旨趣の恢々
住らるものなり。この弧と霧志ばして。只ぐ茶とのむ
人と第人とはなり。陳元輔ぶ枕山樓茶畧にいとと

之為ハ逆とあるの則ハ一條わうこの事ハ全く爽菓と
喫し方の事ハ書きたるものなれどその紙意ハおのゝ
事ハ事ハ[illegible]よりて得逆の則ハ一條とうま掐て世ハの菓
事の逆とあらぶるなるべん

陳氏茶畧中得趣則

飲茶貴得茶中之趣若不得其趣而信口哺啜與
嚼蠟何異雖然趣固不易知知趣亦不易遠行口
乾大鍾劇飲者不知也酒酣肺焦疾呼解渴者不
知也飯後嗽口横吞直飲者不知也井水濃煎鐵
器慢煮者不知也必也山窓涼雨對客清談時知

之中畧竹樓待月草榻迎風時知之梅華樹下讀
離騷時知之楊柳池邊聽黄鸝時知之知其趣者
淺斟細嚼覺清風透入五中自下而上能使兩頰
微紅冬月温氣不散周身和暖如飲醇醪亦令人
醉然第語其大畧至于箇中微妙是在得趣者自
知之若涉語言便落第二義

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan